

Where there is a will, there is a way

二月の中学生はテストラッシュ

中学生の話とはなりますが、二月も中旬を迎え、各学校で学年末テストが行われました。各授業の中で単元ごとに行われる小学校のテストとは違い、中学生の定期テストは、あらかじめテスト期間が定められ、示された範囲の中から出題されます。当然のこと、その範囲は単元を超えたものとなり、約二週間前に示されるテスト範囲を見てからの勉強では時間は足りません。私が現役生徒の頃は、「絶対評価」といい、簡単に言うところ「まわりと比べてできるかどうか」が評価基準でした。評定の五と一が各七パーセント、四と二が各二十四パーセント、三が三十八パーセントと枠が決められて、全体の中でどの位置にいるか、が基準でした。一方で今は「絶対評価」で、「生徒が各教科の目標に対してどれだけ実現できたか」が基準となります。だからこそ、定期テストだけでなく、日々の授業態度、宿題や課題、授業で行われる小テストも対象となり、日常の積み重ねが評価されます。そのことを考えても、小学生のうちに、毎日の勉強習慣を身につけておきたいですね。

今号のトピックス

二月十日月曜日、各学年でテストを終えた後、グループに別れての話し合いの時間を設けました。

実は最近、子ども達が発する「言葉」に若干の危機感を持っていました。他人を傷つけたり不快にしてみよう表現が目立ち、それがもとでトラブルも頻発するようになっていたからです。

「不快」の意味を説明した後、グループに、「自分が言われて不快な言葉はどんなもの？」と質問をして話し合い、その後、「自分に言われてなくても、耳に入ったら不快になる言葉どんなもの？」との質問もぶつけました。グループの話し合いの報告では、「人を貶める言葉(悪口)」「下品な言葉(下ネタ)」「人の容姿をからかう」が挙げられました。



言葉とは、それを聞いた「受け手」にどう感じるかの決定権があります。人を不快にする言葉は使わないようにしましょう、という合意の形成ができた、真剣で活発な話し合いでした。

お知らせ掲示板

① 面談のお手紙を配布します

すでにお知らせのとおり、新年度を迎えるにあたり、イデアの状況をお伝えし、その上で保護者様の要望等をお聞きする機会として、十五分ほど、お迎え時にお時間を頂き、面談をさせて頂きたいと考えています。希望日時をご返答いただくお手紙を近々お渡しいたしますので、ご協力のほど、お願いいたします。

② 新たな取り組みを始めます

目下準備中で、いつから開始と明確な時期をお知らせできないのですが、インターネットを活用した、「イデアの取り組み発信」を始めるといたします。イデアでの活動状況、これまでの塾生たちの成長、そして何より、イデアの取り組みがどのような信念に基づいているのかなど、情報発信する機会を作っていきます。詳細が決まり次第、別途お知らせいたします。

学習の進捗状況

今年度も残りひと月あまりとなりました。イデアでは現在、単元を横断的に学び直し、今年年のまとめの学びを深めているところです。

まず国語ですが、毎日「速読チャレンジ」に取り組むことにしました。短い文章を読み、問いに答えていくプリント一枚を五分の制限時間内ですべて解いていきます。物語、説明文、学年によって随筆の文章について、概要をつかみ要約できる力を身につけていくものです。これはテストというより、毎日一枚を日課とし、数をこなして慣れてもらうことを目的としています。併せて国語は、各単元の発展的な内容が盛り込まれた長文の読解にも取り組んでおり、これはハイレベルなため、場合により授業を行なっています。

続いて算数ですが、各単元の発展的内容について授業を行い、テストでの確認を行っています。



2月10日のテスト合格者

今年度の学習の復習的な内容について、ハイレベルな問題で理解を定着させようというものです。なお、百文字作文も毎日行っており、週ごとにまとめて文集にして配布しています。

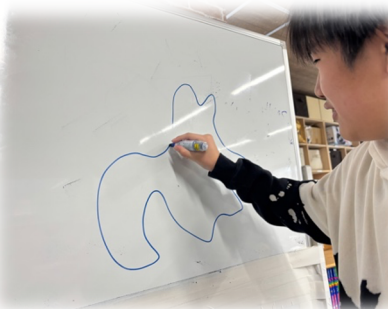
都道府県を覚える取り組みをはじめました

金曜日に、詩の暗唱の取り組みを始めたことはすでにお知らせしましたが、それを隔週で行うこととし、都道府県を覚えていく取り組みをスタートしました。

具体的には、各都道府県の形、人口、面積、特産品や伝統などの「すごいこと」二つについて、まとめられたプリントを配布して覚えてもらうものです。

第一回目となったのは二月七日。覚えていく順番は北から南下していくと決め、最初は我が北海道が出題されました。立候補者二名、塾長指名が一名の三名がテストを受けました。

まずは形。特徴はつかんでいくけど個人的なそれに、みんなで大爆笑。それでもみんな北海道の特徴をつかんでいたので合格です。「自分たちが住んでいるところだから、プリントに書いてある以外のすごいと思うところでもいいよ。でも、質問するからね」と合格の条件を若干変更しました。「自然が豊かなところ」という答えに、「他の県、例えば岐阜家の自然と何が違うの?」



「スキーもやれて海もあって畑があつて食べ物もおいしい!」との答え。もちろん合格です。

天邪鬼独り言 (編集後記)

寒さ本番の季節を迎えると、自分自身の受験のことを思い出します。僕自信は、高校受験時はほとんど勉強をしない受験生でした。小学生の頃から野球をやっていた仲間と一緒に定員を割っている地元の高校に行ければそれでいい。なんて安易に考え、受験勉強よりも学校行事やクラスのことにより一生懸命。今考えると、受験からの逃げでした。

一方、大学受験は、自分の実力では越えられないだろう壁がいくつもある大学を志望したので、がむしゃらでした。友人との時間、恋人との関係、好きなことをして過ごす時間、部活が終わったら謳歌してやろうと思っていた全ての時間を犠牲にしました。

今こうして振り返ると、バランスの問題だと気付かされます。毎日少しずつでも、コツコツと勉強していれば、高校三年生の時の苦しみは、いくらかは楽になったはずでした。「物事を学び始めるのに、遅すぎることはない」という考えがあります。もちろん僕もその考えには賛成で、学びたいと思った時、あるいは学ばなければならなくなった時が、「学びどき」であると思います。しかし、その「学びどき」をどう充実させていけるかは、それまでの積み重ねが物を言うのもまた事実です。塾生たちにも、いつかは来る「学びどき」。その時のために、コツコツと勉強習慣で積み上げてほしいと願っています。